

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## GO TO騒動の消火栓

通勤電車やオフィス街の人の流れは完全にコロナ前と同じ状況に戻っています。政府はようやく重い腰を上げGO TO事業の停止を決断しましたが、前から窮状を発信してきた医療現場の声に顔を背けてきた反省と世論を再修正するまでには至っていません。

国民の目には「GO TO継続」と「出勤抑制・リモート要請」が矛盾する対応に見えるのです。新型コロナへの対応を自己判断に任せるある意味で高度な民主主義の実践なのでしょうが、そうした矛盾を押し通す政治家が国民の危機感の希薄化に大いに影響していることに気づかなければいけません。

国民は自分の生命は自身で守らなければいけません。ともかく個人がマスクと消毒で気を緩めないで行動するしかありません。ウイルスが活発化する秋～冬の乾燥期には感染者であふれかえる心配も現実のものとなっています。

私は昼食を外食で済ますことがほとんどなのですが、やはり店側の衛生管理の意識度合いは気になります。「この店に入るか。」と決める前に店内を覗いて混雑具合を確かめ、特にテーブル間の飛まつ感染対策の有無を見る癖がついています。

経営環境が激変した業種業態では、新型コロナ前と変わらない来客対応ではいけません。何のために持続化給付金を手にすることが出来たのかを考えている経営者の店と、そうでない店とは安心・安全度合いにはっきりと差が生まれるでしょう。

消費者は不便さに寛容になり、商売人はしっかり見える化された対策を取ることで信頼を得られればそれが売上回復以上の好結果につながる。そうした循環こそがニューノーマル社会を形成してゆくと思います。結果として私達ひとり一人の厳しい眼が、一連の騒動の消火栓となるのです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年も大変お世話になりました。学校関係者の皆様の更なるご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。来る令和3年も何卒、弊社をよろしくご愛顧いただきたくお願い申し上げます。

松本 隆一郎